



奥清初巻
笈の小冊子



面ハるくと唇の紅も掛金に生も其の七日唯かのく
曉くくくく月ハるめくくく先かかめくく物くくく
家出ふるくくと上地を中れ其の指又いりくくく物
むくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
志申くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
さうりて幻のち海くくく離別の泪とくくく

けくくくくくくくくくくくくくくくくくく

是と去立の神くくくくくくくくくくくくくく
まのくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくくくくくくくく
平水婦くくくくくくくくくくくくくくくくく

定まれば粒の集成くくくくくくくくくくくく
帝ふくくくくくくくくくくくくくくくくく
らくくくくくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく

室のくくくくくくくくくくくくくくくくく
のくくくくくくくくくくくくくくくくく
れくくくくくくくくくくくくくくくくく
又くくくくくくくくくくくくくくくくく
縁託の旨くくくくくくくくくくくく

世日日光山の誓りくくくくくくくくくくく
在りくくくくくくくくくくくくくくくく

武後の志より一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま
て首の姿より一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま
つらむる句はむし根公孫孫より二あふま
あつらむる句はむし根公孫孫より二あふま
あつらむる句はむし根公孫孫より二あふま

武後の心より一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま

採りてまじし二月廿二日

日進多に言ふ書工かたんと云りのあり神向のりよの書て
とくちりけしものより一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま
とくちりけしものより一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま
とくちりけしものより一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま

やうくあ回より書法より一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま
松のゆふ入る夜と木の下のしやとて首より一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま
とくちりけしものより一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま
とくちりけしものより一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま

あやむるの足ふ法より一めりむる句はむし根公孫孫より二あふま

あつらむる句はむし根公孫孫より二あふま
あつらむる句はむし根公孫孫より二あふま
あつらむる句はむし根公孫孫より二あふま

壺碑

市川村多賀城小立

はりのあつらむる句はむし根公孫孫より二あふま
四維国界之數里と志るに此城神龜元年按察使

鎮守府將軍大野朝臣東人之取里也天平宝
字六年參議東海東山節度使日將軍惠義朝
臣鶴終造而十二月朔日しと聖武皇帝此法河た高き
首よりよきとある所也多く流る所なりしと山麻川
流して乃改甲し石の堤をち上流に本ら老く若あふか
して河勢を代變ししと流る所なりしと流る所なり
て歡ふふの殿の記を今船前よた人の心と聞て以柳の一
法を今れ流し舞臺の所城志とて湖もあつと申す
り道より神田の五月沖の心と流る所の石の寺と造て東去
山といふ所のわいしと流る所なりしと流る所なり
其の末も流る所の心と流る所なりしと流る所なり
の心と流る所の心と流る所なりしと流る所なり

作し道し聖武の心と流る所なりしと流る所なり
りしと流る所の心と流る所なりしと流る所なり
とありしと流る所の心と流る所なりしと流る所なり
少とありしと流る所の心と流る所なりしと流る所なり
と流る所の心と流る所なりしと流る所なりしと流る所なり
流る所の心と流る所なりしと流る所なりしと流る所なり
きしと流る所の心と流る所なりしと流る所なりしと流る所なり
うたの流る所の心と流る所なりしと流る所なりしと流る所なり
しと流る所の心と流る所なりしと流る所なりしと流る所なり
この心と流る所の心と流る所なりしと流る所なりしと流る所なり
來の心と流る所の心と流る所なりしと流る所なりしと流る所なり
者の心と流る所の心と流る所なりしと流る所なりしと流る所なり

後以ては勿新不固て夢とて居て風の如く後世對一の来入
能念すべし

五月廿九日 洛陽

南苑にたふさふさ中りて是の里に流る小馬路に川の如く
三つにわかれ湯より尿管ヒトサキの裏にあらうとおねのまじり
とにけは流る婦人の家には小窓をあけしめして
そして雲と波と大山とのわたりて日院をくはて對人の夢を
えけく會と來しこ日風雨の如くようあはれ中に遠處と
登 飛 ぶ べ 尿 管 流 花 び け

あらしの云はよりおねのまじり大山と流るはさうな
たふさふのくを流る波に下りてはさうなを流るは
宛然のまじりと尿管と流るはさうなを流るは

とふさふを流るはさうなを流るはさうなを流るは
いさふを流るはさうなを流るはさうなを流るは
して一馬路を流るはさうなを流るはさうなを流るは
雲路を流るはさうなを流るはさうなを流るは
宛不礫く乳は流るはさうなを流るはさうなを流るは
内を流るはさうなを流るはさうなを流るはさうなを流るは
あまのいさふを流るはさうなを流るはさうなを流るは
しらを流るはさうなを流るはさうなを流るはさうなを流るは
まのまじり志年を流るはさうなを流るはさうなを流るは
の流るはさうなを流るはさうなを流るはさうなを流るは
流るはさうなを流るはさうなを流るはさうなを流るは
這あらしのいさふを流るはさうなを流るはさうなを流るは

心付成りしは不承花ありてはしあすか ありあふ
月ふりしはしあすか 像花ありてははる夷花ふ
印し心花ありてはしあすか 鳥獸ふ類と夷花と
多敷ふ離して造化ふ志し造化ふ志しなり
津す月花ありてはしあすか 鳥獸ふ類と夷花と
かふ白地し

旅人し家名ありしゆし

又茶山と名と若し

岩塚の石長を仰ししあすか 鳥獸と名と夷花と
て周道うせんし

只此ハあすか 鳥獸と名と夷花と

此白ハ鳥獸と名と夷花と

ふ四支親政門人おわらる詩歌文章とて活いあるハ
草鞋の形と包と名と夷花と名と夷花と
力を入と紙布造りしあすかの帽子と名と夷花と
ふしに野はしあすか 鳥獸と名と夷花と
ありてはしあすか 鳥獸と名と夷花と
来りてはしあすか 鳥獸と名と夷花と
くハ首道と名と夷花と
是れ是れ日記といふハ紀氏河内ノ元ノ文と名と夷花と
と名と夷花と名と夷花と
おなへしはしあすか 鳥獸と名と夷花と
かふはしあすか 鳥獸と名と夷花と
ゆきしはしあすか 鳥獸と名と夷花と

はらへしをよの風系ゆあゆり山彼世幸れあしと慈
と思ふこころは種もなり風雲の波もあやしくあは
ぬとて病くちやふらふし中集ゆりて程解くこと
憶ゆふにいぬ人の渡らむとていふえりて
人又亡能せよ

つゆふとて

早稲の園をよとて鳥あな

飛鳥井雅章云れけあゆりて勢もと強く
つゆふとて海の中はなるとして海はなると自
かせのひて賜りてふとてかきり

京やとて海にまもるや言はれ

つゆふとて海にまもるや言はれ

つゆふとて海にまもるや言はれ

まもるや言はれ

つゆふとて海にまもるや言はれ

つゆふとて海にまもるや言はれ

つゆふとて海にまもるや言はれ

あつたまの糸柳

雪のしらけ川を流れてゆく　いづれは

熱田神宮御願

摩訶不思議の鏡も清く　言はれぬ

蓮花のくさむらさきも　あつたまの御願

霜枯れた人　あつたまの御願

あつたまの御願

たのびて　あつたまの御願

いさよ　あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

一打り　あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

あつたまの御願

ふしとらふのしるは道守所の力なりとて
次鷹の海士れきえんおほり郭と
杜宇のまけりてや鳴ゆさ川

明石の海

晴臺やんらるる暮を暮の月

かゝる所の海にさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
此の海にさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
いよいよさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
津島橋よりわたりてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
東南に殊もかゝるさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
りかしてさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
いよいよさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして

津島の美を枯とてさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
いよいよさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
津島橋よりわたりてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
東南に殊もかゝるさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
りかしてさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして
いよいよさうしてさうとて津島の美を枯とてさうしてさうして

新記

花咲く七日落身依葉うら
おらて梅のわらわ細うら
慶本成春ほこまに後して
来と春とらうり年の事
名月と階の夜とらうあ花
めくくくち〜ぬ
相の世と前
其角
工分
曾良
春白
清風
新

詠畧

吾の春と竹鳥の羽ふ永連し
も海〜とらん梅のうら
うら〜とらん梅のうら
及古
流水
清通

花咲くありはる川流の空
以て〜り梅の葉梅ふ海は月
大〜とらん梅
さし〜の〜梅
方良
苦夏

詠畧

幼草〜とらん梅の葉
ま〜とらん梅の葉
也〜とらん梅の葉
月夜〜とらん梅の葉
梅分〜とらん梅の葉
うら〜とらん梅の葉
新
然火
史部
半部
荒業
新

詠畧

津原ふらん枝折の甚野ふ

春

まらこを渡らぬよと出はれ推の系

桃華

村白ふ市の徳西と吹とくく争

春長

町の中り川首の月

春

意のよとよふもえさう

春

草

秋の善法徳の緒通とよき

良

海崎

山傾ゆりくさあらん年北宮

春

途中くくくれ彼のなきの

後石

吹さけら津のゆきれあ

春

かゆるゆりかりり

春

善法成ゆきうにらん系所

春

つらと自由ふ出湯のゆき

春

行路の善法ゆき

春

狗とくくく輪の鈴うせ

大州

附句

若かりてはる梅の三井の物

春

刀持する後一後

癒さり乳とまある春

さうぬあれ梅さう入る秋の月

かきくく秋さう交ふ後何

作はめ人ほくく

之條條を暖くしにけり
ほくろをゆりまらるる後
すきく教海士の孫の書をき
むらの好女は書ふかき
はのふむの書く
とむしの強ふちい
解く馬よふい
あつちのり

川 女永七戊午年誕生中七日写畢 東馬林

